

替え、当時の台風19号で出した死者62人を大きく上回る98人（行方不明3人含む）に達した。原因は、土砂災害、川への転落、高波にさらわれる、車ごと流される等であった。また、半数以上が65歳以上の高齢者の方であった。

台風が去った後のゴミ処理も大きな負担となった。舞鶴市では一日の処理能力の約27倍のゴミが集まり、豊岡市でも年間のゴミ総量である2万2000tを上回り、推計3万tの災害ゴミが出た。ゴミは量の多さだけではなく、水害によるため水を含んで重いことや、衛生上の問題も大きな悩みとなっていた。また、河口などでは大量の流木が漂着する被害も大きく、港の機能を停止させた。

このように台風23号は、通り過ぎた後も長く尾を引く災いをもたらしたのである。



▲大量の流木で崩壊したJR高山線川上川の鉄橋（岐阜県高山市冬頭町）〔写真提供／読売新聞社〕

【インタビュー】

INTERVIEW



兵庫県 豊岡市長
中貝宗治氏

想像力を働かせて水害に備える

～内水氾濫常襲地域を襲った破堤氾濫～

台風23号による大雨で円山川^{まるやま}の堤防が決壊、市民の約9割に当たる4万2000人に避難指示を出すという事態になった豊岡市。地方自治体の多くにとって、その過酷な経験は決して他人事ではないだろう。当日の状況や今後への提言について、豊岡市長の中貝宗治氏に伺った。

●被災当日の様子を教えてください。

円山川の堤防決壊は、未曾有^{みそう}の体験でした。この辺りは低い土地で、水害といえば通常、内水の氾濫なんです。ところが、国土交通省豊岡河川国道事務所長から16時ごろ、「このままでは、円山川本流が21時には堤防を越えてしまう」という連絡を受けました。異例の事態でした。

そこで、避難勧告発令の検討を始めました。最初は病院や老人ホームに避難勧告の可能性のあることを伝達し、市の施設を開けておく手配もしました。この時はまだ「雨がやむのではないか」という淡い期待もあったのです。後で知ったことですが、上流の出石川の状況もかなり危険で、17時には出石町で避難勧告が出ていました。現在の情報連絡体制では、上流に位置する市町村から豊岡市に情報は伝えられません。上流からの生の声が伝えられると、より適切な対応が取れるのではないかと思います。

豊岡市では、18時05分には避難勧告を、

19時過ぎには避難指示を出しました。

23時過ぎにとうとう円山川本流の堤防が決壊。暗闇の中で濁流が市民を襲いました。

●防災に役立ったことは？

ありがたかったのは、こちらから指示を出す前に、消防団、区長、民生委員などが早め早めに動いて、高齢者や障害者を安全な場所に移してくれていたことです。そのおかげもあって死者が1人だったことは、災害の規模を考えると奇跡的なことかも知れません。亡くなられた1人の方もいったん避難所に避難された後、夜に自宅に戻ってから被害に遭われました。

昨年度、防災行政無線を各家庭に配備したのですが、これが避難勧告、避難指示の際、非常に役に立ちました。「こんなものは要らない」と言った方もいたし、私自身も、いつ役立つかわからないものに大金を投じることにはささか批判的だったのですが、今回、その効果を痛感しました。

●他の首長へアドバイスするとしたら？

まず、不測の事態への「想像力」を働かせること。そして、人は動かないものと思っただけで策を打つこと。避難勧告しても逃げない人がかなりいたので、伝え方も考えなくてははいけません。また、行政にも限界があり、マクロのレベルで手を打っても、災害が広範囲にわたる場合、ミクロのレベルですぐには動けないということを知ってもらうことも大切です。

●河川管理者への要望はありますか？

余裕を持って行動できる中間段階での情報を流すべきだったという反省はあります。そのためにも水位予測をもう少し刻みにもらえればと思います。私は首長として、自分の責任において避難勧告などを出します。

ですから国土交通省には、その意思決定に役立つ情報をどんどん伝えていただきたいと思っています。